

第19号
平成28年
初夏

地域医療支援センターだより

5月12日（木）は看護の日でした！

看護の日ということで当院で5月18日（水）にイベントを開催いたしました。

テーマ

病院から地域へつなぐ看護
訪問看護ってなあに？

看護の日とは？

近代看護を築いたナイチンゲールの誕生日にちなみ、5月12日に制定されました。市民・有識者による「看護の日の制定を願う会」の運動が、きっかけで、旧厚生省により、「看護の日」が1990年に制定されました。1965年から、国際看護師協会(本部:ジュネーブ)は、この日を「国際看護師の日」に定めています。

看護の日イベントには多数の方に来ていただき、ご好評いただきました。

内容

- 1、健康チェック
骨密度、ストレス、
血管年齢のチェック
- 2、フットケア
- 3、訪問看護の相談
- 4、認知症の簡易検査



認知症高齢者のケアを多職種で考える —地域との連携を大切にしながら—

認知症サポートチーム
島田 真弓

認知症高齢者は団塊の世代が75歳になる2025年には、5人に1人と推測されています。認知症対策でも新オレンジプランが策定され、認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域で自分らしく暮らし続ける事ができる社会の実現を目指し様々な取り組みが行われています。認知症高齢者は他の病気を併発していることが非常に多く、その結果身体的治療のために病院に入院することがよくあります。入院による環境の変化は、認知症高齢者に大きなストレスを引き起こし、一時的な混乱を引き起こしやすくなるためこの混乱を緩和していく事が必要とされます。



当院では昨年、認知症についての正しい理解と支えができるよう認知症サポーター養成講座を受講し、200人以上の認知症サポーターが誕生し、更に今年度は認知症高齢者に対するケアの質向上を図るため認知症サポートチームを立ち上げました。認知症サポートチームは医師・看護師・医療ソーシャルワーカー・精神保健福祉士・作業療法士などからなるチームです。今後は認知症に関して知識を深め実践に活かしていきケアの質の向上を図るために必要な研修会の開催やチームで病棟をラウンドし病棟看護師を交え認知症高齢者をひとりの人としてどうケアをしていくことが良いのかなど話し合うためのカンファレンスの開催、入院中の認知症高齢者が集い会話やレクリエーションなどを楽しむデイサロンの充実、退院後その人らしく地域で生活できるよう家族支援や地域との連携など多様な取り組みが求められています。

認知症サポートチームは歩みだしたばかりですが、一つ一つの取り組みを大切に多職種で協働しながら充実した活動をしていければ良いと思っています。

認知症の人は何もわからないのではなく、物忘れや理解力・判断力の低下などから不安や苦しみを抱えています。だからこそ入院という環境の変化に対応できず不安になり混乱が生じてしまうということになります。

入院となり不安を抱えながら入院生活を送られる認知症高齢者の良き理解者であり良き支援者の一人となれるよう、また退院後も安心して地域で暮らせるよう地域の方々との連携を大切に努力していきたいと思います。今後も宜しくお願い致します。

いしかわ診療情報共有ネットワーク がさらに便利になりました！

4月から、いしかわ診療情報共有ネットワーク（IDリンク）でフログレスノートや画像レポート等の医師記載のカルテが閲覧できるようになりました！

今まで見られたもの

処方

注射

画像

検査

プラス

4月から見られるもの

レポート

退院サマリ

経過記録

右のような医師記載のフログレスノートが閲覧できるようになったので、さらに便利になっています。

また、当院では放射線（CT等）と内視鏡のレポート、退院サマリも閲覧できますので、この機会にご活用ください。

フログレスノート 『カルテ2号用紙』

主訴

現疾患（診断内容）

現病歴

既往歴

身体所見

問題

所見

計画

地域医療支援センター メンバー紹介



前列左より、関(退院調整看護師)、上木(センター長)、斎藤(副センター長)、坂本(退院調整看護師)

後列左より、大森(事務)、堤(MSW)、谷内(MSW)、高名(MSW)、中川(事務)、山本(事務)

今年度も上木センター長、斎藤副センター長のもとスタッフ一同頑張ってまいりますので、
よろしくお願いいたします。m(_ _)m

地域医療支援センターのモットーは”つなぐ・つながる・つなげる”です。
院内外の皆様と手と手を取りあって繋がっていききたいと思います。

皆様 **仲良く仲良く!** よろしくお願ひします!